

夫婦の家事・育児分担

妻がメインで夫はサポート？



きっかけは読者からのメールでした。

「仕事と家庭を両立させることは女性の課題とされがちですが、どうして女性ばかりが両立に必死にならなければならぬのでしょうか。まるで仕事と家庭の両立は女性特有の問題であって、男性は仕事さえしていればいい、男性は関係ないと言われているようです。家庭を運営しているのは、男性も女性も同等ではないでしょうか」

この女性は不満が溜りに溜まっていたのでしょうか。メールの文章から心の叫びが聞こえてくるようでした。

「男女共同参画白書（内閣府）によると専業主婦世帯と共働き世帯の割合は平成4年を境に逆転し、共働き世帯は右肩上がりに増加しています。その数は平成20年で1011万世帯。中でも女性が働き続けやすい地方公務員は、共働き世帯も多いのではないのでしょうか。ならば、同じような悩みを抱えた家庭は少なくないはず。家事・育児の分担についてじっくり考えたり、議論することはなかなかありませんが、実はライフプランとも大きく関わっています。日常的過ぎるとはいえ侮れない問題です。だったら一度、姐上に載せてもいいのではないか――」

そこで、今回のこのコーナーでは「夫婦の家事・育児分担」をテーマに取り上げることにしました。

READERS' QUESTIONNAIRE

「ALPS」通信員へのアンケート

そもそも家事・育児分担について、皆さんはどのような考えを持っているのでしょうか？ まずは、そこを知りたいと思いました。

そこで情報誌「ALPS」通信員へのアンケートを実施、77名の方からご回答いただきました。なお、通信員130名のうち75%が男性ということもあり、今回のアンケートの回答者は男性62名、女性15名。データを見るにあたって男女比が極端にアンバランスな点に注意が必要です。注意点はもう一つ。アンケートの際には家事と育児を分けずに「家事」として質問しています。「家事・育児」として質問した場合と回答が変わったであろうことは考慮しなければなりません。いずれにしてもアンケート結果は一つの目安としてご覧いただければと思います。それでは早速、アンケート結果を見ていきましょう。

Q1は「あなたは夫婦共働きについてどう思いますか？」(図1)です。「共働きすべきでない」の回答者は男性2名だけで女性の回答者は無し。「子どもが小さい頃などの期間だけは共働きすべきではない」は男性のほうが多い結果となっています。その理由は60代男性から寄せられた「子どもにとって母親に勝るもの

図1 Q1「あなたは夫婦共働きについてどう思いますか？」

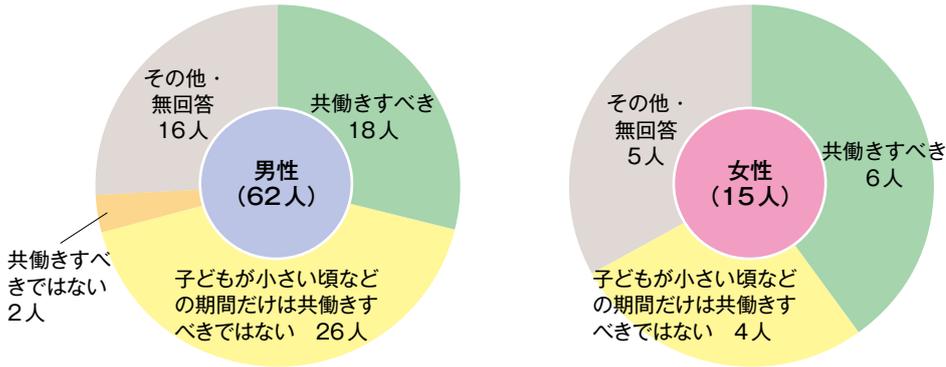


図2 Q2「あなたは共働きであれば家事は夫婦平等に分担すべきだと思いますか？」

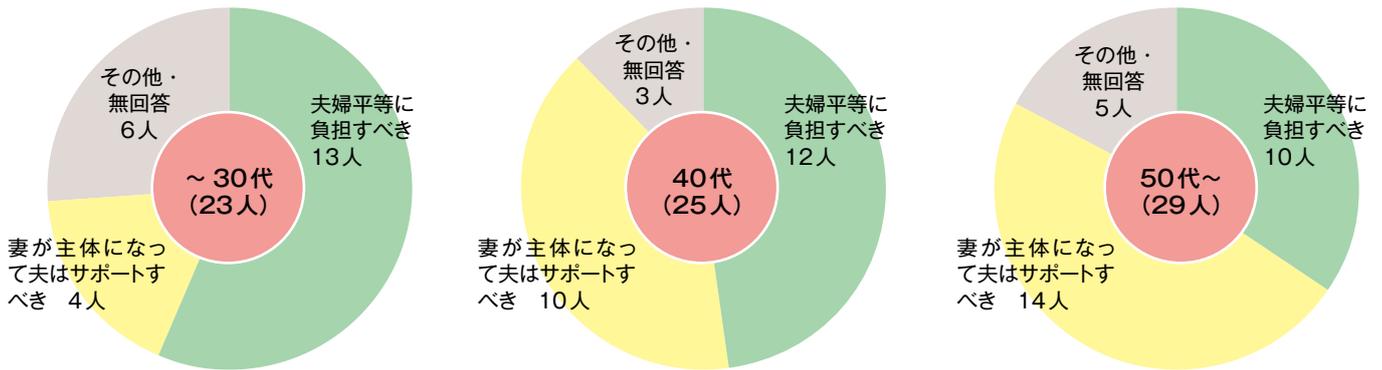
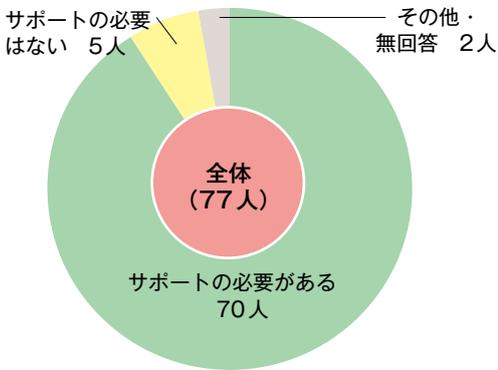


図3 Q3「あなたは専業主婦(夫)でも家事のサポートは必要だと思いますか？」



はありませぬ。特に接触欲求が満たされなければならぬ乳幼児期は、決してそれを離れないでいただきたい」に象徴されるのかもしれない。

「その他」の中には「それぞれの事情があり一概には言えない」「夫婦で相談して決めるといふプロセスが大事。相談の結果、共働きであつてもよいし、そうでなくともよい」「共働きをするかしないか、そのものが当事者の判断に委ねられるべき」「働かなくて済むのであればどちらでもよい」「子どもがいるから共働きをすべき、すべきでないという問題ではないと思う。経済状況や人生観、世帯に祖父母がいるかどうかによる」との回答がありました。

Q2は「あなたは共働きであれば家事

は夫婦平等に分担すべきだと思いますか？」(図2)。集計結果は男女別ではほとんど差がなかったものの、年代別では明らかに傾向が見られました。と言うのは、20代~30代では「夫婦平等に負担すべき」の割合が高いのに対し、50代以上では「妻が主体になって夫はサポートすべき」の割合が高くなっています。40代はその中間といったところでしょうか。「その他」の中には「夫婦が労働環境などに応じた役割分担をすべき」に類似した内容が多く見られる中、「共稼ぎであろうとなかろうと、家事の分担は当然である」と考える。女性が家事をするという発想そのものがおかしい」という40代男性の意見もありました。

Q3は「あなたは専業主婦(夫)でも家事のサポートは必要だと思いますか？」

(図3)。結果は男性も含めほとんどの方が「専業主婦(夫)でもサポートの必要がある」と回答。これについては予想と異なる結果でしたが、個人的にはホッとした気持ちになりました。ちなみに「サポートは必要ない」の回答者のうち男性3名はいずれも妻が専業主婦、女性2名はいずれも共働きの方でした。

Q4は「あなたは夫婦で家事分担していますか？」(図4)。全体としては「あいまだが家事分担している」が最も多くなっていますが、ここでは働き方の違いによる集計を掲載しました。「いずれか

図4 Q4「あなたは夫婦で家事分担していますか？」

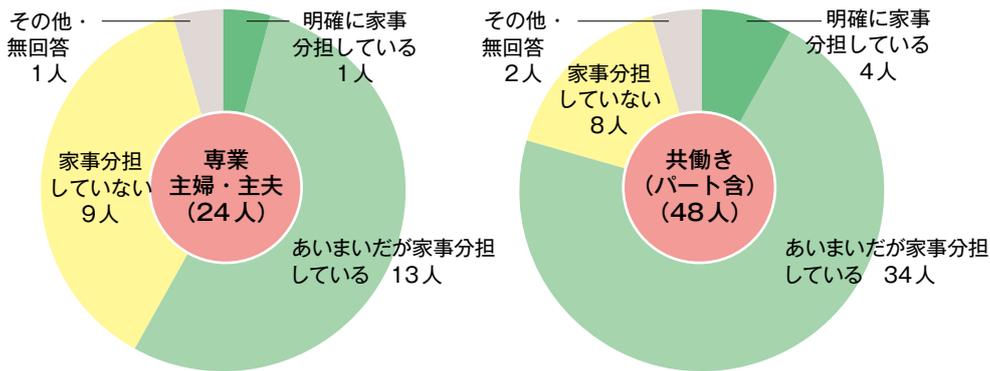


図5 Q5「家事分担している方にお聞きします。夫はどんな家事を担当していますか？」
(複数回答)

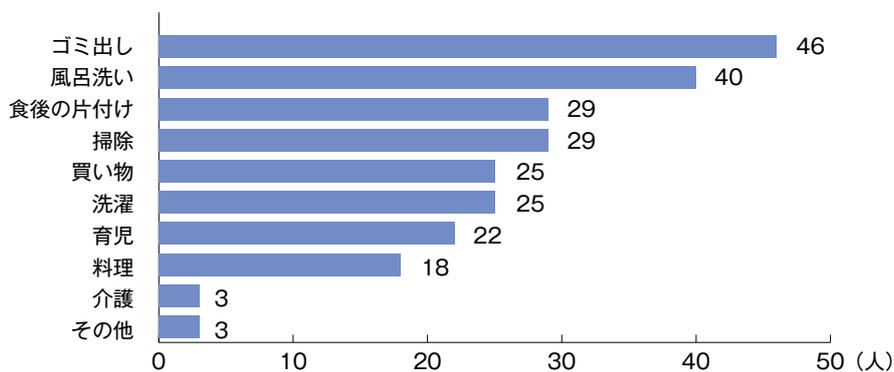
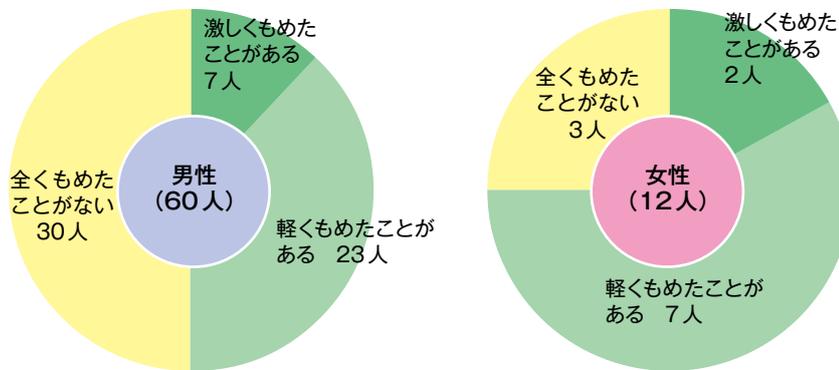


図6 Q6「あなたは家事分担について夫婦でもめたことがありますか？」



が専業主婦(夫)では「家事分担して
いない」の回答が3分の1を占めるのに
対し、「共働き(パートを含む)」では「家
事分担していない」が2割程度となつて
います。なお、このQ4以降の質問は独
身者が回答できないため合計数が72名と
なっています。

Q5はQ4で「家事分担をしている」
と回答した方だけに答えていただきまし
た。「夫はどんな家事を担当しています
か？」(図5)。最も多かったのは定番の
「ゴミ出し」です。出勤時の夫のゴミ出
し風景はテレビドラマでもよく見るワン
シーンですね。「風呂洗い」「食後の片づ

け「掃除」と続いているところを見ると、
比較的妻にこだわりがない部分を夫が担
当しているケースが多いということでは
ようか。複数回答となっているため、多
くの回答者が二つ以上やっているよう
ですし、ほぼすべての家事をこなしている
男性も多く見られました。なお、「育児」
に関わっている方の割合が意外と低い
は、回答者の世代が幅広いことに起因し
ていると思われます。

また、グラフは載せていませんが、Q
4で「家事分担していない」と回答した
方にその理由を尋ねてみました。結果は
「いずれかが専業主婦(夫)だから」は
5名、「仕事が忙しく、時間がないから
(本当は家事分担したいができない)」は
3名、「共働きだが、家事は妻がすべき
だから」は2名となっています。

Q6は「あなたは家事分担について夫
婦でもめたことがありますか？」(図6)。
これについては男女間で大きな差が見ら
れ、女性では「激しくもめたことがある」
と「軽くもめたことがある」の回答が合
わせて7割以上を占めるのに対し、男性
では「全くもめたことがない」が半数と
なっています。この結果の裏には、夫婦
間の認識の違いがあるのかもしれませんが。
以上が「ALPS」通信員によるアン
ケート結果です。回答者の方にたくさん
書いていただいたフリーアンサーのコメン
トはスペースが許す限り掲載しています。

アンケート回答者のフリーアンサー

- 夫婦の形は人それぞれなので、お互いの意見を言い合い家庭を築いていければいいと思います。[20代男性]
- どちらも強要すべきではないが、夫婦共働きでない場合、主婦(夫)が行う子育て・地域活動といった時間は、社会貢献という意味で仕事と同じ価値があると社会全体で認識すべき。[30代男性]
- 「お互いに、できることは、やる」が望ましい姿だと思っています。「相手ができること(やるべきこと)だから、やらない」と考えないよう、心がけています。[30代男性]
- お互い働いている場合は、どうしても忙しい時期にはきちんと家事ができないことがある。でも、日曜にまとめて行う、一方が空いた時間をうまく利用する、などできないことはないと思う。相手も忙しいだろうから、自分の空いた時間に〇〇だけでもやっておこう、というような気持ちが大変だと思います。[30代男性]
- 我が家は共働き。私は公務員で勤務先まで近く、妻は比較的遠い会社で働いています。そのため、娘の保育園への送迎や食事を除く家事全般、病気による急な対応も私が担当しています。こうしたことを行うのは、一般的に女性が多いように思います。そういう意味で、共働きで男性と同じように働き、家事の多くを行う女性には頭が下がる思いがしています。[30代男性]
- 幼稚園の送迎をやったくらいで育児をしたような気になっている首長や議員は、パフォーマンス以外の何者でもないという憤りを感じる。それは分担ではなくていいとこ取りだ。[30代男性]
- 妻に家事の多少の不都合は多めに見てほしい(洗濯物の干し方とか…)。[40代男性]
- 得手不得手があると思うので、それぞれが向いている家事を分担するのが理想だと思います。[40代男性]
- 妻の主張。専業主婦がいても仕事が終わって、一旦帰宅したら家事は「家のこと」、家族が平等に分担すべきもの。[40代男性]
- お互いに「やってあげている」という気持ちでやると無理がでます。お互いが「ありがとう」という気持ちをもっていけるといいなと思っています。[40代男性]
- 我が家は専業主婦です。「夫は家事分担していない」と回答しましたが、学校行事や子どもの部活動などについては父親が主に分担しています。また、お互いの体調が悪ければ分担内容は当然変わりますし、要は思いやりの心を持ち臨機応変に対処することが大事だと思います。[40代男性]
- 職場で「本日は残業をせず、早く帰宅し家族サービスをしましょう」と呼びかけているが、呼びかけそのものが「夫は家族サービスをやっていない」ことを前提にした発想である。[40代男性]
- 当方は料理が得意なのですが、片付けが妻の役目だと妻に愚痴られます。子どもを育てると同じ様に、褒めながらやってもらうことも大切じゃないのでしょうか。それと根気よく教えることも必要かも。50:50なんだから。[40代男性]
- 相手の立場になって考えるということに尽きる。現状では妻が専業主婦に近い状況なので家事分担は多くないが、常々、苦勞を積極的に買って出るというポーズは示している。[50代男性]
- 私は公務員、妻はパートタイムの医療事務です。農家の長男だった私は、土日とも畑仕事でつぶれていた上、妻が勝手に飼った犬の散歩もほとんど私の仕事。それでいて「家事をもっとやって当然」との態度は納得できません。[50代男性]
- 若いときはお互い協力しあうという気持ちと行動が重要だと思います(自己反省からですが…)。[50代男性]
- 「男子厨房に入らず」という事に共鳴しています。料理は女性の家事の一つとしてとらえていますし、人は、他人さまに与える喜びを感じたい欲求があり、必要とされている実感を日々味わう事によって、その方の自己実現欲求が満たされるようであります。また、妻からいろいろなお世話をさせていただける中で絆の強さなども感じられ、それが愛情交換にも発展しているように感じます。[60代男性]
- 妻は手話通訳で要請があった時のみ仕事。そのため家事全般は妻の業務。不在の時はすべての家事を私が実施。ただ、炊事において台所の道具等自分が決めている場所と違うところに直すと怒り、洗濯物もたたんでおくと自分流にたたみなおす。かといって何もしていないと不満を漏らす。こんな状態が何年も続いています。それでも何とか折り合いがつくものです。[60代男性]
- 60代後半の自分は、基本的には仕事は夫、家事は主婦がやってもらうことがあたり前に思って生きてきた世代であった。でも家事の内容をよく見ていると大変であり、出来るものは自分が手伝ってやりたいと思っているが、自分からはやりますとは言わない(逃がっているのかも)。[60代男性]
- 少しの分担でもいい。家事を共同参加の形でやっていけば、その内容も自然と落ち着いてくる。[60代男性]
- 私の夫には妻を助けたい心があり、自然と家事分担ができていました。とても有り難いですし、これ以上何を要求するのかと自分でも卑しく思いますが、やはりどんなに夫が分担してくれてもあくまでも夫は「お手伝い」感覚なので、メインは私がやることになります。私はフルタイム勤務で残業も休日出勤も手加減なしのハードワーク。工夫と手際で家事に取り組んでも時間的に厳しく夫の助けが必要ですが、夫に手伝ってもらった後に拭き足りないところを拭き直すなど不足を補わなければならないので、結局は妻の負担があまり減っていません。[20代女性]
- 夫婦共働きの場合は、心理・体調面等互いに配慮しあっていれば、臨機応変に「できることをできる方がやる」というふうになるのではないのでしょうか。我が家では育児・料理・掃除・洗濯等の全ての家事を、主人も私も行います。厳密に分担をしているわけではないですが、主人が帰宅が早い日は主人が、逆に私が早い日は私がという風にやっています。お互いに忙しい時期は子どもに手伝ってもらったり、外食等も利用しています。[30代女性]
- 家事のみならず、家庭経営において分担しているとは言っても夫より妻の方の比重が大きい。にもかかわらず、夫はしていることを主張してばかり。共にフルタイムで働くなら、比重が対等になってこそ真に分担していると言えるような感じがする。比重が同じでないなら単なる「手伝い」にすぎないのでは？[30代女性]
- 育児や学校関係のつながりというのは、こんな時代になっても世間では母親主導です。小学校のPTAの行事の参加者はほぼ100%母親。子どもに何かあった時、一番に呼び出されるのは母親でしょう。躰がなっていない子がいたら「母親は一体何やってるんだ!!」という目で見られるのも事実です。子どもがいなければ夫婦平等、家事分担平等も可能かと思いますが、子どもがいたら女性(母親)の負担はかなり大きくなると思います。[30代女性]
- 他の家庭よりも夫は家事をやっていると思うが、あくまで妻の補助的感覚であるのが残念だ。本来、一人で暮らせばすべて自分でやるものを、家族で暮しているから二人(家族全員)で分担するものだと思うので、夫が「やってあげている」という意識を持つのはおかしいと思う。[40代女性]
- 日本はまだまだ男社会ではないのでしょうか。私の場合、姑が専業主婦でしたから、夫は家事一切を妻がやるべきと思っていたようです。親の姿勢も大変だと思います。共働きであればもちろんですが、専業主婦であっても夫の助けは必要です。育児に疲れ切っている主婦もいるのですから。「分担する、しない」とか「共働きである、なし」にかかわらず、家族として協力し合う体制が普通に根づく社会だといいですね。[50代女性]
- 家事は生活していくために必然的に発生することなので、しなくていいということはなく、誰かがしなくてはならないのです。一人でするより二人でした方が早く済んだり、楽しくできたりということは確かなので、他人の家と比べることなく、工夫していくことが大事だと思います。[50代女性]
- いかにも仕事をしたような顔をしている時がある。[60代女性]

アンケートにご回答いただいた皆さまご協力ありがとうございました。

ご夫妻の基本情報

浅川秀一郎さん（夫）…37歳、浅川美香さん（妻）…36歳

長女…7歳、次女…5歳

浅川さんご夫妻は共に群馬県職員。職場恋愛で9年前に結婚。

車で40分の距離に妻の実家があるが、余程のことがない限り育児・家事を頼らない。

では具体的に、家事・育児の分担がうまくいつている夫婦はどのようにしているのでしょうか——その秘訣を探るべく、共に地方公務員で家事・育児の分担をされているというご夫婦に、それぞれお話を聞かせていただきました。

COUPLES' INTERVIEW

家事・育児分担している共働きのご夫婦

群馬県職員・浅川美香さん（妻）

——家事・育児は、「ご夫婦でどのように分担されているのですか？」

明確な分担を決めるのではなく、仕事の状況によって時間のあるほうが家事や育児をするようにしています。夫が忙しい時には私が、私が残業の時には夫がメインでこなしています。保護者会やPTA、町内会なども夫婦で手分けします。ただし、次女が通っている保育所の保護者会は女性ばかりなので、私が出席しています。その辺は状況に応じてという感じですね。それに両親のお祝い事や親戚付き合いも私が気づいてやっています。

——結婚当初からご夫婦で家事をされていたのですか？

料理については結婚してしばらく私がほぼ100%作っていましたが、掃除や洗濯については最初から2人で一緒にやっています。家事分担について特に話し合ったり私からお願いしたわけでもな

く、夫は自然にやってくれていました。

でも当初は、妻である私がリードしたほうが良いとは思っていません。

——家事についてケンカしたことは？

掃除や洗濯で夫が思い通りにやってくれなくて、私が機嫌を損ねることはありました。言葉で言わなくても態度に出ていたのでしょう。夫はそれに気づいて、気を遣っていたのかもしれない。

——ご主人の家事で不満なところは？

洗濯物を干す時、向きがバラバラなのが気になります。でも大したことじゃないので文句は言わないようにしています。

料理について、夫にはフライパン一つでできる程度やつてもらえれば十分と思っています。野菜炒めは子どもたちも「パパが作ったほうがおいしい」と言っているくらい。夫は料理するようになってから調理用具に興味を持ったようで、いろんなおもしろグッズを購入してきます。大容量の計量カップとか、変な泡だて器とか、男性は道具が好きなんですかね。

——共働きなら、家事分担は当たり前前だと思いますか？

夫も私も「そっちがやって当たり前」という意識はありませんし、「やってあげている」という感覚もありません。ただ、私は自分の中で「昼間の仕事や家事・育児すべてを含めて半分くらいは自分がやる」と考えていて、感覚的にバランスを

取るようにしています。

私の仕事が忙しい時は、夫が家事・育児をメインで担当してくれます。でも、そんな夫について甘えすぎて、私自身、家の中の仕事量が足りないと感じる時は、皿洗いしている夫から仕事を奪ったりすることもありますよ。

夫婦で協力してやっていくのが当たり前という環境が自然にできているという意味で、共働きでよかつたなと思います。もちろん、夫への感謝の気持ちは常に忘れないようにしています。

群馬県職員・浅川秀一郎さん（夫）

——家事分担について、何か心がけていることはありますか？

結婚当初から私は、妻が家事をしている時は一緒に家事をする、ダラける時は一緒にダラけて、妻だけが忙しくする時間は作らないよう心がけていました。

それから、妻にこだわりがあるところには手を出さないようにしています。私は大学時代に一人暮らしの経験もあり掃除、洗濯、料理と家事は一通りできるのですが、妻と一緒に家事をする中で、妻にとつてこだわりがあるところには手を出してはいけなないと気づいたもので…。

——奥様がこだわっている家事とは？

料理です。妻は料理にすごくこだわりがあつて、下ごしらえからしっかりとタイプです。我流で基礎知識のない私が

浅川家のある日の
家事・育児分担

(妻が仕事で繁忙期の場合、
夫が繁忙期の場合は逆転)

23:30	23:00	22:30	22:00	21:30	20:30	19:30	19:00	18:30	18:00		8:00	7:30	7:00	6:30	6:00	
妻…就寝	妻…入浴後、洗濯物をセツト	夫…入浴	妻…帰宅、晩ごはんの後片付け	夫…晩ごはんの後片付け	夫…子どもの寝かしつけ	夫…長女、次女の入浴	夫…子どもと晩ごはん	長女…お風呂掃除 夫…晩ごはんづくり	夫…帰宅後、次女の着替え等	夫…次女の保育所へお迎え		夫…軽く晩ごはんの準備をして出勤	妻…次女を保育所へ送って出勤	夫…妻…子どもの食事・身仕度	夫…妻…洗濯物干し	起床

作っていると妻がイライラしているのが

伝わってきて、これはまずいなど。それ

からしばらく料理は妻に任せていました。

ところが、子どもが生まれた後、妻が
職場復帰すると一人では手が回らなくな
ってしまつた。私にも料理を任せざるを
得なくなり、妻もイラつかなくなつてき
たので、厨房に立つようになりました。

とは言つても、最初はなかなか手際よ
くできませんでした。なぜ、女性は一度
に二つ、三つのことができるのか不思議
で仕方がなかつた。料理の手際が悪くて
晩ごはんが遅くなると子どもに迷惑をか
けるので、リミットは決まっています。

それにせつかく作った料理を子どもが
残すと残念で、残さずに食べさせるレシ
ピを考えているうちに切磋琢磨されてい
きました。子どもが「これおいしい」と
食べてくれると、やつたと思えますね。

料理を作るのにWebサイトのレシピ
を活用していますが、最近は短時間で作
れるレパートリーが増えましたよ。妻に
比べて使える食材が少ないので、前もつ
て私が料理担当とわかつている時は、1
週間の食材をまとめ買いしたり、朝のう
ちに晩ごはんのことを考えています。帰
宅してから考えたのでは遅くなりますか
ら。職場でも共働きの夫同士、レシピ情
報を交換したりしています。

料理もそうですが、やり始めてくだわ
りができると何でもおもしろくなります。

——ご主人がこだわる家事とは？

洗濯物の干し方ですね。家族4人分だ
と量が多いので詰め込み方がポイントに
なるのですが、妻と干すと干せる量が減
つて私がやり直さないといけない時
があります。本人には言わないようにし
ていますけど。

家事もトライアンドエラーで回数を重
ねているうちに自分流のやり方ができて
きました。限られた時間内でどうすれば
効率上がるか、自分なりに優先順位を
考えたり、だんだん家事の組み合わせ方
がわかつてきましたね。

——逆に苦手な家事は？

鍋やフライパンを洗うのは苦手です。
厨房で男性が作業するようにできてい
ないから、前かがみでやっていると腰に
負担がかかるんです。以前は40分もかけ
て食器を洗っていたから大変でした。食
洗機を買ってからは飛躍的に時間短縮で
きましたけど。食洗機は詰め方によつて
入る量、洗いがりが違ってきます。そ
んなことを研究するのも意外と楽しい。

——そこまで家事や育児に関わっている
と、仕事に影響は出ませんか？

妻と私は繁忙期が違うので、余裕があ
るほうがメインで家事・育児をしていま
す。年間の3分の1は私が、3分の1は
妻が残業続きといった割合でしょうか。
私は技術職で比較的自分の裁量で年間ス
ケジュールを決められるので、妻の繁忙

期と重ならないように仕事は前倒しで終
らせるよう努めていますし、普段から極
力残業しないで済むよう効率化を意識し
て仕事に取り組んでいます。

私の職場では共働き夫婦が多く、子ど
もや家のことを理由に帰つても、上司か
らはむしろ公私ともに頑張っていると評
価してもらえるので、その点は恵まれて
います。その代わり、職場の仲間が家の
ことで大変そうな時には私もサポートし
ています。お互いがサポートし合える職
場環境の影響は大きいですね。

——妻が専業主婦だったらいいのに…と
思ったことはありませんか？

私は、妻も外に出て自分の力を発揮し
て、自分の世界を持ってもらっているほ
うが、夫婦関係はうまくいくと思います。
妻も家庭以外で自信を持てることがあれ
ば、小さいことにこだわらないでしょうし。
私は結婚しても、男性が一方的に守る
のではなく、対等に話ができ一緒に歩
いていける関係を望んでいました。だか
ら妻とは同志のような感覚です。お互い
仕事を持っているなら、家庭のことも分
担するのは当然だと思えます。





試行錯誤しながら家事・育児を分担されてきた浅川さんご夫婦。それぞれのお話をうかがいながら、家事・育児の分担がうまくいく秘訣は、仕事と家庭運営に対する価値観が同じということに加え、夫婦がお互いを思いやる気持ちこそ何よりも大事なのだと改めて気づかされました。

では、家事・育児の分担をすることは、家庭や社会にどんな影響を及ぼすのでしょうか。夫婦の家事・育児について調査研究をされた、社会学の専門家にお話をうかがってみましょう。

SPECIALIST INTERVIEW

男性の家事・育児参加が与える影響

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部研究開発室主任研究員・社会学博士



松田茂樹さん

——国際的に見て、

日本の男性の家事・

育児参加レベルはど

のくらいですか？

欧米と比較すると、日本は韓国と並び男性の家事・育児参加は遅れています。とは言っても、欧米も一括りにはできず、先進的なスウェーデンに続きアメリカは進んでいるけれども、フランスは少し遅れている状況です。

家事・育児参加を考える時、家事と子育ては分けたほうがいいでしょう。家事

参加はなかなか進まなくても、育児参加は進んでいます。日本の男性は育児参加についても遅れているとはいえ、明るさもあります。平日は育児も含め家事にほとんど参加しなくても、休日の参加率はアジアの中でトップクラス。平日参加できない埋め合わせを休日にする、そんな日本の男性の姿が浮かび上がってきます。

この背景には三つの要因が考えられます。一つ目は労働時間です。日本の男性の労働時間は欧米より遥かに長い。二つ目は意識の問題です。調査をすると保守的な男性ほど育児に参加しないという明確な結果は得られませんが、恐らく意識の問題はあるだろうと。三つ目が家計の問題です。夫婦の収入を見ると、日本では夫のほうが入が高いケースが多くなっています。これについて「女性より収入の高い男性しか結婚相手に選ばれにくい社会構造になっている」と指摘する研究もあります。つまり、男性は稼得の負担を負わされているのです。

欧米では、男性の家事・育児参加と女性の社会進出が同時に進んできています。男性に日本ほど稼得の負担を求めない代わりに、家事・育児の参加を求めています。即ち、家庭の外でも中でも「共に働く」ことを重視しているのです。

——男性が家事・育児に参加することによる効果を教えてください。

一つ目は女性が働き続けられるように

なるということです。女性が働けば、国においては労働力の確保につながりますし、家庭においては明らかに収入が増えます。当社が調査分析した『ライフデザイン白書』では「フルタイムの共働き世帯が最も家計に余裕が持てる」という調査結果が報告されています。夫の収入は世帯によってそれほど差が生まれず、妻の収入の有無により家計の収入が大きく左右される。つまり、妻が働くことで家庭は経済的に安定します。

二つ目は子どもを持つ家庭が増えるだろうということです。子どもを持ちたくても持てなかった家庭にとって子どもが持てれば嬉しいですし、国にとっては少子化の抑制になります。産業という観点から見れば新たな商品開発にもつながります。欧米では男性が家事・育児に参加することにより、男性目線の新たな商品が生まれています。

三つ目は妻の育児ストレスを軽減できるということです。育児を妻だけに任せ切りだと孤独や不安で追い詰められ、ひどい時は虐待につながります。困った時に相談できるホットラインなどで支援するという方法もありますが、最も簡単なのは身近にいる夫が育児に参加することです。父親が子育てに関わることは、子どもにとってもプラスの影響があります。

以上のように、男性の家事・育児参加による効果は考えられますが、共働きで家



した。なぜなら、私たちは子どもがある程度大きくなるまでは、子どもとの時間を大切にしたいと思ったからです。

日本の母親はとても教育熱心で、子どもの勉強をサポートしたり、学校行事や保護者会にも母親の参加が求められます。フルタイムの仕事をしていれば、これらをこなしていくのは大変です。

スウェーデンの隣国フィンランドでは、学校のサポート体制がしっかりしているので、親はあまり心配しなくても学校に行ってさえいれば子どもの教育はきちんとやってくれます。しかし、日本の場合は子どもの教育も家庭に任されている部分が大いなので、そのための時間が必要となるでしょう。

——日本の夫婦の家事・育児分担について、驚いたことはありませんか？

男女の役割がはっきり分かれていることに驚きました。例えば子どもの教育は妻が担当で、車のメンテナンスは夫が担当という具合に。スウェーデンでは仕事の状態などによりその都度、都合のつくほうが家のことを担当しています。

私の子どもは現在小学校に通っているのですが、PTAの時、父親と母親が別々の部屋に分かれて集まることにも驚きました。先日行われた餅つき大会では、料理は母親たちだけが集まって作り、その間父親たちだけが掃除して、打ち上げの時も父親と母親で別々だったので、すぐ

く不思議な感じがしました。

——スウェーデンでは、家事や育児についてどこで学ぶのですか？

私の時は中学校で週1回「家事」と「子育て」の授業があり、基本的なことはそこで学びました。簡単な料理とか本当に基礎的なことですけど。それに家庭でも小さい頃から家事を手伝っていました。

私は大学生になってから一人暮らしを始めたので、そこでも家事を身につけられたと思います。と言っても、実家の隣のアパートでの一人暮らしなので、実家で食事することもよくありました。スウェーデンでは高校を卒業すると多くの人が一人暮らしを始めます。早く独立したいという意識が強いんですね。

——スウェーデンでは、専業主婦はどのくらいいるのですか？

日本では1人分の給料でも十分生活していけますが、スウェーデンでは2人分の給料がないと暮らしていけません。ですから専業主婦はまず経済的に難しい。

それに「女性も働くべきだ」という社会通念があります。実はスウェーデンでも1950年代までは専業主婦がいました。ですが、60年代頃から、女性も家のことをするだけでなく、社会に参加したい、仕事をしてキャリアを積んでいきたいという意識が高まってきました。

国としても、60年代は右肩上がりの経済成長を遂げていた時期で、労働者不足

の問題がありました。外国人労働者を受け入れていましたが、それでも足りないくらいだったのです。ですから、女性が社会に出て積極的に働いてくれれば、国としても大いに助かるという側面もありました。これについては、現在の日本も同じ状況ではないでしょうか。



以上、夫婦の家事・育児分担についてさまざまな角度から見ましたが、いかがでしたか。「家庭は社会の最小単位」と言いますが、家事・育児は家庭の問題であると同時に、これからの社会制度の在り方を考える上での一つの課題です。「たかが家事」と言うなかれ。各家庭の家事・育児の分担が、間接的に社会全体に影響を及ぼすことは想像に難くありません。冒頭のアンケートではある専業主婦からこんなコメントが寄せられました。「家事がきちんとできるなら、外で仕事をしてほしいと夫に言われる」。

ちなみに私の夫は自室の掃除を除いて家事にノータッチ。ですが、今回の取材のことを夫に話すうちに、催促したわけでもないのに洗濯物を全自動洗濯乾燥機に放り込んだり、食器を洗ったりするようになりました。もちろん、しわだらけの洗濯物に不満はありますが、温かく見守っていききたいと思います。

(協会職員／篠田良子)

夫婦問題カウンセラーに聞く 「上手くいく夫婦家事分担のコツ」



夫婦問題カウンセラー 小林美智子さん

夫を家事上手に育てるテクニック

①「依頼」と「文句」を分ける

妻が料理をするかたわらで、夫はゴロ寝してテレビ。妻は思わず「ちょっと！手伝ってよ」と声を上げました。この時妻は、困っているから手伝ってほしいのでしょうか？ それとも、自分だけが忙しくしていることに腹を立てているのでしょうか？

依頼と文句を一緒にすると、夫は妻が何を言いたいかわかりません。夫に依頼する前に、妻は夫にどうしてほしいのか、気持ちを整理することが必要です。その上で、夫にしてほしいことを手短かに言うようにしましょう。女性の長々とした話は男性には理解しにくいですし、余計なことを言ってケンカにつながりかねません。

②夫にルールを決めてもらう

「お風呂掃除はあなたの担当なのに、どうしてやってくれないの！」ルールを守らない夫に妻はご立腹。ところでそのルール、一体誰が決めたのでしょうか？ 妻が決めたルールでは、夫の家事は長続きしません。では、夫にルールを決めてもらうにはどうすればいいのか。例えば次のように言ってはどうでしょう。

妻「一生懸命家事をやってきたけど、体力的に無理みたい。あなたができること、何かないかしら？」

夫「だったら、俺、お風呂掃除できる。それにトイレ掃除も」

妻「じゃあ、あなた悪いんだけど、休みの日でいいからやってくれるかしら」

夫「わかった、やる」

これは夫が決めたルールです。夫が自分で決めた以上、継続する可能性は高くなります。いかに夫にルールを決めてもらうかが、妻の工夫のしどころです。

③まずはとにかく「ありがとう」の一言

「掃除機ちゃんとかけたぞ」夫としては10割できたとつもりなのに、妻からすれば5割の出来映え。せっかく頑張ったのに、妻に文句を言われてしまった…これでは夫の意欲はそがれてしまいます。何はともあれ、まずは「ありがとう」と感謝の言葉を述べましょう。

夫がやった家事で直してほしいところは、ありがとうの後に言えば夫も聞く耳を持てます。妻にとっては「当たり前のこと」をやってもらっただけなのに、どうしてありがとうと言わなければいけないの」と抵抗があっても、マナーだと思って言うようにしなければ家事分担は進みません。感謝の言葉は先に言った者勝ち。妻が一枚上手に立って、夫の意欲を引き出していきましょう。

④家事をマニュアル化し、レクチャーする

「夫に洗濯してもらったら、しわだらけで着れたもんじゃない」夫の家事にがっかりした女性は多いことでしょう。でも、男性は女性に比べ家事を学ぶ機会が少ないのが現状。平均的に見て男性は家事が苦手です。自分のやり方どおり夫に家事をやってもらいたければ、マニュアルとレクチャーが必要です。レクチャーしても一度でできるようにはなりません。何度でも根気よく教えながら、夫の家事能力を高めていきましょう。

⑤こだわりや流儀のない部分から任せる

「食器を洗う時は、洗剤が残らないようしっかりすすがないとダメ」自分では気づいていなくても、妻には家事の中でこだわりの部分があります。こだわりがあるところを最初から夫に任せ、妻が満足できる可能性は極めて低いでしょう。

夫も「この部分には妻の流儀がある」とわかっていて、「でも、自分にはできない」と思うとやらなくなります。ですから最初のうちは、妻は自分にとってこだわりや流儀のないところを夫に任せるのがポイントです。まずは簡単なことから慣れさせて、少しずつ難易度を上げていけば、いずれ妻のこだわりのある部分もこなせるようになるでしょう。

家事に対する価値観の違いが、 夫婦の相互理解を阻む

家事に対する価値観には、男女間で大きな差があります。例えば共働きの場合で、男女それぞれが持っている価値観を数字で表すと、次のような感じになります。

男性 仕事=70 家事=10 育児=20

女性 仕事=30 家事=30 育児=30

男性は、自分の仕事がすごく特別なものであるのに比べ、家事など大したことないと思っています。それに対し、女性は仕事も家事も育児も同じくらいの価値だと思っています。このような価値観のズレがあるため、夫婦がお互いを理解しにくくなっています。

夫婦関係をうまくやっていくには、男性は家事も仕事と同じくらい価値があると思ったほうがいいでしょう。夫の意識の中で家事に対する価値が上がれば、家事に追われる妻の大変さが理解できるはずです。そうすれば、妻も夫の仕事での苦労を思いやることができるでしょう。

妻も夫もお互いが、自分は大変なことをやっていて、相手にわかってほしいと願っています。「専業主婦にとっては家事が仕事だ」と言うのであれば、家事は仕事と同じ価値があると認めてもらわなければ、妻は家事を気持ちよくこなせません。家事の大切さに気づき、良き夫としての姿をお子さんに見せてください。これこそが究極の子育てにつながります。